



水産だより 千葉

(発行者)

公益財団法人 千葉県水産振興公社

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-3-1

TEL 043-222-3181

FAX 043-222-2440

はじめに

この度、関係団体の皆様と協力して水産だより千葉を発行することにいたしました。

千葉県の水産業を元気にできるよう、大切なことや明るい話題をお伝えしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

公益財団法人 千葉県水産振興公社

理事長 根本 均

水産振興公社の事業活動

日頃より、当公社の運営に多大なる御支援・御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

当公社は、栽培漁業を効率的に推進するため、県、市町村及び漁業者と一体となった全県的な組織として平成6年6月に設立され、事業活動もノリ養殖業の振興や漁船漁業の経営改善などに拡げながら、千葉県水産業の振興に取り組んでいます。

栽培漁業の推進に関しては、県や関係機関と協力してアワビ、ヒラメ、マダイ、マコガレイ、クルマエビ、アユの種苗生産放流に取り組みとともに、ノリ・ワカメ養殖の種苗を生産しています。このうち、アワビにつきましては、今年度、昨年度と御要望にお応えできていませんことを深くお詫びいたします。

また、厳しさを増す東京湾漁業の生産活動の一助となるよう、漁場環境等に関する調査や貝類漁業振興事業にも取り組んでいます。

今後、千葉の海がより豊かになりますよう、役職員一同、一生懸命に取り組んでまいります

令和3年度の種苗配付・放流計画と実績

種\内容	計画	実績
アワビ	165 万個	※ 101 万個
ヒラメ	94 万尾	107 万尾
マダイ	100 万尾	114 万尾
クルマエビ	600 万尾	655 万尾
ノリ	20 万枚	21 万枚
マコガレイ	46 万尾	44 万尾

※ アワビは年度末見込み



ヒラメ種苗



マダイ種苗



アワビ種苗

ので、引き続き、御支援、御協力くださいますよう、お願ひいたします。

「青混ぜ海苔」の安定生産に向けて

千葉の「青混ぜ海苔」は、黒ノリに青ノリを混ぜた海苔で、青ノリの豊かな香りと黒ノリの旨味を味わうことができます。ことから、比較的高い価格で取引されています。しかし、使用する青ノリ養殖は天然採苗に頼っているため、生産が不安定となっていました。

そこで、県水産総合研究センター東京湾漁業研究所は、この青混ぜ海苔に使用する最適種としてキヌイトアオノリを選定し、母藻の大量培養技術と母藻を用いた養殖技術を開発しました。

水産振興公社は、今年度県からの委託を受け、キヌイトアオノリの母藻培養に取り組み、14kgの母藻を生産し、これを利用した7漁協50名の漁業者が青ノリの養殖に取り組んだ結果、約60万枚の青混ぜ海苔を生産することができました。今後は、公社の事業としてキヌイトアオノリの母藻生産を行い、これまでの黒ノリの種苗生産と併せ、味と香りの豊かな「江戸前ちば海苔」、「青混ぜ海苔」が安定的に生産できるよう、取り組んでまいります。



キヌイトアオノリの母藻



培養の様子

資源管理型漁業の推進について

千葉県では、水産資源の持続的利用を図り、将来にわたる安定した漁業生産を確保するため、種苗放流や漁場造成など直接的な事業を実施する一方、漁業者に対しては、自らが主体となって積極的に資源管理を実践するよう、幅広く啓発指導を行っています。

また、県は魚種別・漁業種類別に小型魚の再放流や漁具・漁法の制限などの資源管理措置等を規定した「千葉県資源管理指針」を定めており、各漁協はこれに基づき資源管理計画を策定し、実践に取り組んでいるところです。

水産振興公社も千葉県資源管理協議会の一員として漁業者が取り組む資源管理の履行確認や指導を行っています。

さらに、県では沿岸水産資源の管理の方向性を定め、現在漁業者が取り組んでいる資源管理計画の効果を検証し、必要に応じて改善するなど資源管理の高度化を推進していくために、選定した対象魚種の資源評価を実施しています。

〔主要魚種の資源評価〕

対象魚種	資源水準	資源動向
キンメダイ	銚子沖：高位 勝浦沖：中位 東京湾口：低位	銚子沖：増加 勝浦沖：増加 東京湾口：減少
ヒラメ	太平洋北部系群：低位 太平洋中部系群：中位	太平洋北部系群：減少 太平洋中部系群：減少
マダイ	高位	増加
マコガレイ	低位	減少
クロアワビ	中位	横ばい
メガイアワビ	中位	増加

漁業協同組合等の人材育成・確保対策の取組

（千葉県漁業協同組合連合会）

令和元年8月開催の第26回JF経営指導千葉県委員会において、県内JFグループにおける経営の健全化対策が承認され、将来の漁協を担う中堅職員として身に着けておくべき組合の健全な運営や業務の適切な実施に必要なとされる知識、及び基礎的なマネジメントスキルを習得すること、更には最近の水産業を取り巻く情勢を捉え、漁協に期待される役割について対応できる人材を育成することを目的に、漁協職員研修会を開催しました。

この研修会は、2年間で基礎講座と実務を学ぶプログラムとしており、令和3年度が1年目ということで、勝浦（7/27〜28）と千葉（8/4〜5）の2会場に分けて、合計23名の漁協職員が2日間の研修会に参加しました。

今年度は基礎講座として、「漁業協同組合とは」及び「これからの漁業の発展方向と漁協の役割」についての講義、グループワークとして「中堅職員に期待される役割とリーダーシップ」についての研修を実施しました。

研修会の参加者からは、「このような講義を初めて受けたので勉強になった」、「これからの仕事に活かしたい」などのご意見をいただきました。

この研修会が、今後の組合経営の健全化に向けた人材育成の一翼を担うことを期待して、来年度の実務講座に繋げていきたいと考えています。



グループワークの様子

【銚子漁港】水揚量 11年連続日本一！

（銚子市）

銚子は魚の水揚量日本一のまちです。

銚子の沖合は寒流と暖流がぶつかる潮目で、海底の栄養のある海水が沸き上がります。そこへさらに利根川からも栄養に富んだ水が流れ込んでいます。栄養たっぷりなのでプランクトンが大量に発生します。プランクトンを食べるイワシなどの小魚が大集合し、小魚を食べるサバやカツオがやってきます。

そんな「食物連鎖」が銚子沖で起きています。これが日本屈指のよい漁場の秘密です。特に冬は魚種も豊富で脂のりも抜群です。

まさに食べるなら今です！！



銚子漁港 水揚の様子

内房の藻場再生を目指して（館山水産事務所）

内房地区沿岸の藻場は、近年磯焼けが進み、平成29年度の調査では鋸南町・館山市洲崎の海域を中心に約57%の藻場が消失したと推定されています。そのため、内房地区では令和元年から藻場再生のための試みをスタートし、令和3年現在、内房の各地先でアラメ・カジメの遊走子の播種のための母藻を入れたスポアバッグの設置や、藻場消失の原因の一つと思われる植食性魚類のさし網での除去を実施しています。

アラメ・カジメを中心とした藻場は、放流されるアワビ、サザエの主要な餌料であり、また数々の水生生物の産卵場、育成場となります。

藻場の再生を目指して、内房での試みは始まったばかりです。



スポアバッグの設置